



10月の園だより

令和5年 10月 2日
目黒区立ひもんや保育園

残暑が厳しく、園庭での水遊びが続いていました。全クラスが園庭にいて、気づくと0歳児クラスの子がもう水道の蛇口に手が届きそうです。水が出ている蛇口に顔を近づけながら手を伸ばし、しぶきがかかってもとてもうれしそうにしている姿があり、夏の水遊びで存分に水に親しんだ様子がうかがわれました。9月の後半になると、ようやく朝晩の風が涼しくなり秋を感じるようになりました。子どもたちも日が暮れるのが早くなったことに気づき「もう暗いね」と季節の変わり目を感じています。

幼児クラスはそんな中、運動会の取り組みが始まっています。ホールからは子どもたちの大きな掛け声が聞こえてきて、ダンスの練習をする姿も見られています。5歳児クラスの子どもたちは鉄棒や縄跳びに挑戦します。初めはできなかった前跳びも今はリズムよく跳べるようになってきています。当日保護者の方に見てもらえることを楽しみにしている反面、失敗したらどうしよう、できなかったらどうしようと不安になる姿も見られています。ドキドキしながらも頑張る姿、できるようになりたいと練習に取り組む姿、「できた、できない」ではなくそれまでの努力に「頑張ったね」と言葉をかけ、子どもたちの自己肯定感を高めていきたいと思っております。今年度は2歳児クラスからの参加となります。元気な子どもたちの姿から子どもたちの成長を感じていただきたいと思います。

10・11月の行事

- 10月 運動会（2～5歳児クラス）
芋掘り遠足（4・5歳児クラス）
秋の定期健診
幼児お楽しみ会
- 11月 交通安全教室

※10月より乳児医療証が新しくなります。コピーをお持ちください。



もうすぐ運動会

もうすぐ運動会です。先日（9/27）に運動会を行う第七中学校をお借りして、3、4、5歳児クラスの子どもたちが練習を行いました。

広い場所で、思い切り走ったり、クラス競技の練習をしたりして楽しみました。5歳のリレーの練習では、今年も職員チームが登場し、真剣勝負を繰り広げました。

練習後給食を食べながら「運動会（の練習）楽しかった」という子どもたちです。

運動会当日、楽しい一日となることを願っています。



戸外遊びの様子 ～0、1歳児クラス～

つくし組 (0歳児クラス)

数名の子どもは、田向公園までの散歩も歩いて行けるようになりました。公園でも自由に探索しながら歩いています。保育士が「まてまて」と追いかけると、木の間をグルグル回って嬉しそうに逃げています。そんな様子が楽しく見えたのか、歩き始めたばかりの子も両手を広げてバランスを取りながら近づいてきます。ようやく木の幹にたどり着くと“ここまで来れたよ”と言うかのように、にこりと笑いかけてくれます。追いかけてこをしていた子と一緒に幹の後ろ側に隠れ「〇〇ちゃん」と声をかけ「ばあ」と顔を出すと、ケラケラ声を出して笑っています。今度は反対側から「ばあ」と顔を出して「いないいないばあ」を繰り返して、次々と木を移動しては楽しんでいました。散歩先で探索を楽しんだり、段差などをよじ登ったり跨いだりなど全身を使って遊んでいきたいと思っています。

すずらん組 (1歳児クラス)

先日、ひもんや公園に行き探索していると、どんぐりが落ちていました。保育士が「どんぐりがあるよ」と言うと、子どもたちも“どこ、どこ”と探して掌いっぱい集めて、一生懸命ズボンのポケットに入れていました。その後も池のカメを見ながら歩いていると、一人の子が“ザー”という音に気づきました。音のする方に近づいて行くと側溝があり、穴を覗いて「あっあっ」と“ここだよ”と音はここから聞こえると教えてくれます。保育士も覗いてみると、水が流れ、葉が落ちていました。「お水流れているね」と言うと、嬉しそうな笑みを見せてくれました。しばらくの間みんなで穴をのぞいて水の流れを見て楽しみました。帰園後の食事では、いつも以上に夢中で食べている子どもたちです。その姿を見て、子どもたちが満足するまで遊び、空腹感を味わい食事に向かう大切さを改めて感じました。

栽培活動 ～4、5歳児クラス～

こすもす組 (4歳児クラス)

おやつの際にスイカを食べていると、種を手に取り「先生、これ、植えてみたい」と言う子がいました。保育士が「いいね。でも、どうやって育てようか」と言うとスイカの育て方を図鑑や絵本で探し始めました。すると「土に3つずつ植えるんだって」と言うので、保育士がポットと土を用意すると、種を入れて優しく土をかぶせ、「早く大きくなってね」と水やりをしていました。「先生、名前決めたよ。」「何ていう名前にしたの」と聞くと「アントニオ」と誇らしげに教えてくれました。数日後、芽が出ました。

すると「すごい」「やったー」と大喜びの子どもたちです。様々なことに興味を示し、“やってみたい”という探究心があふれています。スイカの時期も過ぎているので結果は想像しているものと違うかもしれませんが、その過程を子どもたちがわくわくしながら経験できるように一緒に楽しんでいきたいと思っています。



ひまわり組 (5歳児クラス)

田植えをするために稲の本を広げた時に、かかしの存在を知り「かかしをくりたい」と言っていた子どもたちです。夏が終わり稲穂が実ってきたので、その子どもたちがかかしを作りました。初めに竹棒で骨組みを作り、服を着せると「かかしになってきた」と喜んでいました。その後、顔を作ったり、帽子をかぶせたりして仕上げました。周りで見っていた子も完成したかかしを見て「すごい、かかしができた」とびっくりしていました。そしてかかしを見ながら「(怖くなくて)可愛いかかしになっちゃった」「これですずめは来ないかな」「ちゃんと見張っていてくれよ」などと、会話しながら嬉しそうです。後日、クラスみんなで田んぼにかかしを置きに行くと「お米ちゃんとできるかな」「いい感じ」と、満足そうに、帰るときは何度も振り返って見ていました。

